中日新聞

八田技師　生誕 120 年を記念

金沢で除幕式

日台懸け橋　生家に碑

生誕地に建てられた、八田與一氏の碑を感慨深げに見る関係者ら＝5日、金沢市今町で

大正から昭和初めにかけ台湾南部に大規模なダムと水路を建設した金沢市出身の技師八田與一氏（一八八六－一九四二年）の生誕百二十年を記念する石碑が同市今町の生家の庭に完成し五日、家族や関係者らが除幕式を行って偉業を偲（しの）んだ。　（報道部・加賀大介）

八田氏は旧四高、東京帝大工科大学を卒業後、台湾総督府に勤務。一九二〇年から十年間をかけ、台湾南部の嘉南平原に長さ千二百七十三メートルの当時東洋一とされた「烏山頭（うざんとう）ダム」と、総延長一万六千キロの給排水路を建設。同平原は台湾随一の穀倉地帯となり、八田氏は「台湾農業の恩人」としてダムの脇に銅像が建てられ、命日の五月八日には毎年墓前祭が行われている。

生誕地碑は地元有志でつくる「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」（中川外司事務局長）が建立。除幕式には地元住民らも出席し、山出保市長は「台湾との友好、世界平和に寄与した功績は計り知れない」とたたえた。台湾から来日した嘉南農田水利会の徐金錫会長も「碑の完成を機にさらに交流を深めていきたい。こうした懸け橋がこれからも私たちの心に深く深く残っていくと思う」と語った。

八田氏の孫の八田修一さんは「祖父の死後六十年を経ても金沢や台湾の人々がこれほど慕ってくれていることに大変感動しました。家族の一人として、日本と台湾の友好に努力することを碑に誓いたい」とあいさつした。

http://www.chunichi.co.jp/00/ikw/20061106/lcl_____ikw_____000.shtml